

# 関西教育学会

第 74 回大会

# 大会プログラム

2022(令和4)年 11月21日(月)~27日(日)

オンライン開催

滋賀大学・滋賀短期大学

# 大会プログラム 目次

オンライン開催のご案内 .....	2
自由研究発表 .....	3
公開シンポジウム .....	10

## オンライン開催のご案内

関西教育学会第74回大会は、依然として新型コロナウイルス感染拡大が収束しない状況に鑑みて、昨年度に引き続き Web 開催の学会となります。

「自由研究発表」は、口頭発表資料を学会ホームページに掲載するという形態で実施いたします。「公開シンポジウム」については、同じく学会ホームページにおいて、あらかじめ収録した動画を配信いたします。

異例の開催形式が続きますが、多くの会員の皆さまがご参加くださいますようご案内申し上げます。

1. 日時 2022（令和4）年11月21日（月）～11月27日（日）

\* この期間内に「自由研究発表」の口頭発表資料および「公開シンポジウム」の動画を閲覧（無料）することができます。

2. 大会ウェブサイト

関西教育学会ホームページ <http://kansai.educ.kyoto-u.ac.jp/>

3. 参加費

個人発表者、共同研究者のみ 3,000 円を徴収。その他は無料。

# 自由研究発表

## 1. 教育思想・哲学

- ・ O.F.ボルノーと V.E.フランクルの教育思想における庇護性に関する一考察  
名和優(芦屋大学大学院生)
- ・ フランクルとボルノーにおける教育思想の一考察 ―精神の抵抗力と希望―  
築田貞子(神戸親和女子大学 大学院生)
- ・ 「自由」に対する「教育」の応答―「教育福祉の独自性」探究に向けて―  
田中佑典 (大阪府立大学大学院生)
- ・ 静寂の教育における意味について  
青島繭 (立命館大学大学院生)
- ・ ガート・ビースタ『学習を超えて』『よい教育とはなにか』における「中断の教育学」に関する一考察  
本多泰之 (大阪府立大学大学院生・堺市立小学校教員)
- ・ シュムポジウム篇における美しさの学びとプラトンの教育  
東 敏徳
- ・ 教育の〈一般概念〉の生成発展についての思想史的探求  
山内清郎 (立命館大学)

## 2. 教育史

- ・中内敏夫による学力論の意義と課題

明石寛太（京都大学大学院生）

- ・労働者に向けた社会教育の戦後史試論—1970年代前半における京都知識人と京都市行政職員における教育観の転換に焦点を当てて—

奥村旅人（同志社大学研究員）

- ・格差社会としての東京・本郷周辺 —1895（明治28）年に菊池大麓が私立代用小学校長を務めた背景—

岡本洋之（兵庫大学）

- ・公立高等女学校の同窓会組織による教育事業活動とその展開

土田陽子（帝塚山学院大学）

- ・H. ダイアーの工部大学校構想のモデル —スイス連邦工科大学—

加藤詔士（名古屋大学名誉教授）

## 3. 学校教育

- ・教育機関におけるコロナ後遺症対応を考える—コロナ後遺症の実体験の臨床的考察を媒介にして—

森 亘（大竹栄養専門学校）

- ・コロナ禍における公立中学校の対応—「学校評価アンケート」を活用した B 中学校の分析—

平野 達郎（名古屋産業大学）

- ・「対話的な学び」について—ヴァルター・ベンヤミンの「物語」概念を手掛かりにして—

島田喜行（同志社大学）

#### 4. 教育方法

- ・戦前における今井譽次郎の生活綴方論の展開：雑誌『教育・国語教育』を中心として  
瀬川千裕(神戸大学大学院生)
- ・青木幹勇による授業論の成立過程—読解指導の変化に注目して—  
小松佳生(京都大学大学院生)
- ・重松鷹泰による教育研究の特質 ————確かな教育のための「教育の科学化」———  
SACHINI DILANKA UDAWATTA (京都大学大学院生)
- ・文学教材を STEAM 化する意味と学習者の意識について  
堀 力斗(大阪大学大学院生)
- ・「教育技術の法則化運動」発足における言語哲学からの影響：宇佐美寛の諸論に通底する哲学的基盤を踏まえて  
糸川薫樹 (京都大学大学院生)
- ・中国の ICT 教育—マイクロレクチャーに着目して—  
楊欣
- ・日本におけるサービス・ラーニングの展開 (24) —インタースクールでの活動から—  
大東貢生 (佛教大学)

#### 5. 教科教育

- ・政治的教養を備えた主権者を育てる中学社会「公民」の授業 —「政治的スペクトラム」を用いての実践報告—  
児玉英靖 (洛星中学・高等学校)
- ・コロナ禍における音楽科授業研究会の諸相  
高見仁志 (佛教大学)
- ・小学校第3学年の算数科教科書の巻末に準備されている教材・教具(付録)の内容 —数学的活動の充実をめざして—  
木村憲太郎 (大阪総合保育大学)

## 6. 生徒指導

- ・中高生のSNSトラブルに関する検討—なぜTwitterに性被害が多いのか  
山田智子（佛教大学大学院生）
- ・「いじめ」防止から「重大事態化」防止へ:重大事態化防止策の効果的実践モデルの検討  
中村豊（東京理科大学）
- ・いじめの歴史的変遷に関する研究  
浅田瞳（華頂短期大学）  
原清治（佛教大学）
- ・生徒・進路指導における自己実現をめぐる一考察：シュタイナー教育の実践に注目して  
奥本陽子（大阪公立大学）

## 7. 幼児教育

- ・保育における「保育ケア」の意義と役割をめぐる一考察  
日下 貴代（神戸親和女子大学大学院研究生）
- ・幼稚園教諭のプログラミング教育に対する意識とICT機器の活用実態—就学前プログラミング教育カリキュラム開発のための幼稚園教諭アンケートを通して 2—  
鍛治谷 静（四條畷学園短期大学）  
安谷 元伸（四條畷学園短期大学）  
合田 誠（四條畷学園短期大学）
- ・保育学生の「遊び」の回想と捉え方に関する研究—年数経過や回想時期による変化の把握—  
藤重育子（姫路大学）
- ・宮澤康人の教育関係史における〈大人／子供〉対立の再編  
吉田直哉(大阪公立大学)
- ・黄昏た子どもの行動の意識づけをするための支援  
森近利寿

## 8. 後期中等教育

- ・通信制高校を経由する〈移動〉の意味——生活史調査から見えてくるもの——  
大久保遥（京都大学大学院生）
- ・生涯学習への発展を企図した高校生による聞き取り調査の実践 —広域通信制高等学校における事例紹介—  
八田友和（クラーク記念国際高等学校）
- ・生徒による授業評価における授業満足度について —必修科目と選択科目の比較—  
山口 隆範（びわこ成蹊スポーツ大学）
- ・探究的な学習に関わる高校教員の意識変容  
中井咲貴子(京都精華大学)

## 9. 高等教育

- ・大卒歯科衛生士が抱える困難感 —総合病院入職者の語りから—  
寺島雅子（佛教大学大学院生）
- ・大学教育機会をめぐる鹿児島県内の地域間格差  
小林元気（鹿児島大学）
- ・女子大学生のキャリア形成意識に関する試論  
長谷川誠（神戸松蔭女子学院大学）
- ・オンライン授業における教職課程の学生の学び —学生の記述から見た現状と課題—  
国吉恵一（京都産業大学）
- ・教職科目「教育の方法と技術」における ICT 活用指導力の育成—特別の教科 道徳や総合的な学習・探究の時間の実践事例を基にして—  
藤原靖浩（関西福祉科学大学）
- ・専門職大学に関する研究と今後の展望に関する考察  
田中達也（釧路公立大学）



## 10. 教師教育

・校内授業研究会を通じた小学校教員の同僚性向上に関する考察 -アンケートにおける同僚性に着目して-

上山 那々 (佛教大学大学院生)

・教育におけるユーモアの重要性

加藤惣一郎(神戸親和女子大学大学院生)

・養護教諭の援助要請に関する研究

山野実紀(佛教大学大学院生)

・アクティブ研修による学習する組織づくり -神戸市総合教育センター研修育成係の新たな取組-

廣岡千絵 (神戸市総合教育センター)

・校長のリーダーシップ育成に関する一考察 -校長自身が必要とする研修とは-

井上 正英 (愛知教育大学)

## 11. 特別支援教育

・特別支援学級及び通級による指導の適切な運用についての現状と課題

中間茂治(大阪府立大学大学院生)

・不登校児の生活習慣と食習慣についての事例研究(1) -A フリースクールに通う児童へのアンケート調査を基に-

新井 寛規(姫路大学/非常勤講師)

馬場住子(大阪千代田短期大学)

・特別支援教育における集団による自立活動の指導に関する提言 -より確かな子どもの実態把握と教科等のつながりを意識した教育課程を目指して-

藤澤憲 (和歌山県立紀伊コスモス支援学校)

・保育士養成における施設実習に関する一検討 -児童発達支援センター職員への実習記録に関するインタビュー調査を通して-

木村将夫 (阪南市立たんぽぽ園)

## 12. 地域と教育

- ・地域と学校の協働に関する考察—島根県を事例として—

山本竜司（放送大学大学院生）

- ・地域子育て支援拠点におけるソーシャルワークの現状と課題（3） —実践教育モデルの改良に向けた検討を通して—

新川泰弘（関西福祉科学大学）

- ・合同学校運営協議会の現状と課題

大橋保明（名古屋外国語大学）

## 公開シンポジウム

### VUCA（ブーカ）時代を、日本の教師として生きること

#### —公共性・専門性・働き方の視点から—

##### シンポジアスト

奥村 好美（京都大学）

武田 緑（Demo 代表／School Voice Project 発起人）

岸田 蘭子（滋賀大学）

##### 司 会

岸本 実（滋賀大学）

李 霞（滋賀短期大学）

##### 指定討論

大野 裕己（滋賀大学）

久保田 重幸（滋賀県教育委員会）

##### 【趣旨】

2020 年以降、コロナ禍の学校現場をめぐる混乱と修復の変遷は、まさに VUCA（変動性・不確実性・複雑性・曖昧性）の時代を象徴するものであった。未知の感染症と全国一斉休校の要請という未曾有の事態のなかで、教師たちは、「目前の子どもたちを何とかしたい」との思いから様々なアイデアを具現化させてきた。あれから 2 年余りを経て、私たちは少しずつコロナウイルスへの対応を学び、落ち着きを取り戻しつつある。コロナをきっかけに変化したさまざまな学校生活の様式は、元に戻ってゆくこともあれば、さらに変容し続けていくこともあるだろう。

だが、ここで一度立ち止まってみたい。新たな時代を生きる教師は、このような時代をどのように捉え、どのように変わっていくことが必要なのだろうか。コロナ以前より、学校はさまざまな危機のなかにあるものとして語られてきた。効率的に同質的な労働力をもつ人

材を育成してきた近代学校制度は、時代の変化のなかで限界を見せはじめた。教師は学習指導のみならず、部活動、不登校やいじめへの個別対応や、ICTの活用などの現代的な教育課題への対応に迫られ、その多忙さは深刻化している。学校への過度な期待と要求のなかで、教師の専門性が揺らぎ、問われている。学校のサービス産業化や教師不足の問題は、学校の公共性自体を揺らがせている。

コロナ禍の経験は、課題が山積する旧来の学校システムを見直し、子どもたちと教師が日々ともに生活し、豊かな学びと成長の場として機能する学校をつくっていくために活かされるべきだろう。そのためには、過重労働により失われつつある、教師の自律性や主体性を回復させ、地域とのかかわりや多様な教員相互の関係性を生かしたボトムアップの教師文化を再構築していく必要があるのではないだろうか。

本シンポジウムでは、教育をめぐる複雑な課題を包括的にとらえながら、VUCAの時代に日本の教師としてどう生きるかをテーマに議論を行う。「公共性」「専門性」「働き方」という糸口から、新たな時代の教師の在り方を模索し、その展望と希望を見出していきたい。

## シンポジアスト紹介

### 【奥村 好美 (おくむら よしみ)】

・京都大学 准教授

京都大学大学院教育学研究科博士後期課程を修了後、兵庫教育大学講師、准教授を経て、現職。オランダにおける学校評価やオルタナティブ教育に関する研究や、日本の学校現場との共同授業研究などを行う。主著に『＜教育の自由＞と学校評価—現代オランダの模索』（単著、京都大学学術出版会）、『「逆向き設計」実践ガイドブック—『理解をもたらすカリキュラム設計』を読む・活かす・共有する』（共編著、日本標準）などがある。

シンポジウムでは、オランダのピースフルスクールプログラムを取り上げることで、公共性という視点での示唆を導出してみたい。

### 【武田 緑 (たけだ みどり)】

・教育ファシリテーター／Demo 代表

人権教育・シティズンシップ教育・民主的な学びの場づくりをテーマに、企画や研修、執筆、現場サポート、教育運動づくりに取り組む。主な活動として、全国各地での教職員研修や国内外の教育現場を訪ねる視察ツアー「EDUTRIP」、多様な教育のあり方を体感できる教育の博覧会「エデュコレ」、立場を越えて教育について学び合うオンラインコミュニティ「エデュコレ online」などがある。2021年に呼びかけ人として、学校現場の声を見える化し社会に

届ける「School Voice Project」を教職員らとともに設立。WEB アンケートサイト「フキダシ」、WEB メディア「メガホン」を運営しつつ、ロビイング活動などを展開している。2022年8月に法人化し、理事に就任。著書に『読んで旅する、日本と世界の色とりどりの教育』（教育開発研究所）がある。

シンポジウムでは教職員の皆さんと共に「学校現場の声」を集めて対話の文化づくりを目指している取り組み「School Voice Project」のを中心にして話題提供する。

### 【岸田 蘭子（きしだ らんこ）】

#### ・滋賀大学 特任教授

京都市出身。京都の小学校を中心に教育現場で38年間の教職人生を送る。令和2年3月に定年退職後、京都市教育委員会で教員養成の仕事に関わるとともに令和3年4月より滋賀大学教職大学院で実務家教員として、現職教員および教員をめざす学部新卒生の指導にあたっている。専門は家庭科教育、カリキュラム研究、学校経営、教師教育。

シンポジウムでは自身教育実践のライフコースをたどりながら、これからの教員はどう生きるのか、教員として生きるために何が求められるのか、その手がかりが見いだせるような話題提供ができればと考えている。

## 関西教育学会第74回大会実行委員会

実行委員長	岸本実（滋賀大学）
副実行委員長	李霞（滋賀短期大学）
事務局長	山本一成（滋賀大学）
準備委員	大野裕己（滋賀大学）
	岸田蘭子（滋賀大学）
	窪田知子（滋賀大学）
	久保田重幸（滋賀県教育委員会）